

# 92年度夏山合宿記録



荒川三山 ㊦

## Aパーティー

CL 大矢 康裕  
SL 板倉 英夫  
手嶋 正博  
高橋 孝典

中尾 優  
宮内 邦宏

日本電装 (株)

電友会山岳部

# 92年度夏山合宿反省

NO.

作成 年 月 日

部 課

配布先	

まず、全体計画から振り返ると、今回の合宿は、新人の基礎技術習得、及び冬山合宿に向けて長期縦走に耐える体力養成を目的として実施し、Aパーティー、Bパーティー共に悪天の日があつたにもかかわらず無事予定の計画をこなすことができました。合宿の目的は、まだ十分とは言えないが、新人にとっては良い経験になつたと思う。Aパーティーの方は、宮内エムが体調を崩し、2日目下山のアクシデントがあつたにもかかわらず、それ以降天候とメンバー状況を見て行動を予定より進めた為、計画より1日早く下山となつた。これは、当初の計画時のコースタイムが甘めてあつたことにもよるか、積雪期と同様に夏山でも臨機応変に行動を進めたことは良かったと思う。Bパーティーの計画は、最初塩見ピストンで考えていたが、ある程度メンバーがそろつた為北岳までの縦走ができ、今後の夏山合宿のBパーティーの計画の参考にしたい。

以下、Aパーティーについての反省であるが、まず、体調を崩したり足の不調を訴ふる者が続出したということである。宮内エムが下山した後も完走を危ぶまれる状況が何度もあつた。“夏山だから”という甘えがあつたとは思いたくはないが、各自、日頃のトレーニング・体調管理の有り方を反省すべきであらう。今回、宮内・千嶋・高橋・中尾の4人には1日毎に交替でトップをやらしてもらつたが、コースがはまりしていることもあり、大きな問題はなかったが、読図、ペース、後方への心配り等、手は不十分なので、これからもっと勉強して欲しい。また、新人で天気図が書けない者は、しっかり練習すること。最後に、留守本部・留守費の方々、及びさし入れをくださった方々、こちらも有難うございました。

経路 作成部署 報告部署

保管 原紙 年 年

承認
検討
作成 大天

〒 \_\_\_\_\_  
↑  
〒 \_\_\_\_\_

NO. \_\_\_\_\_  
作成 年 月 日  
部 課

配布先	

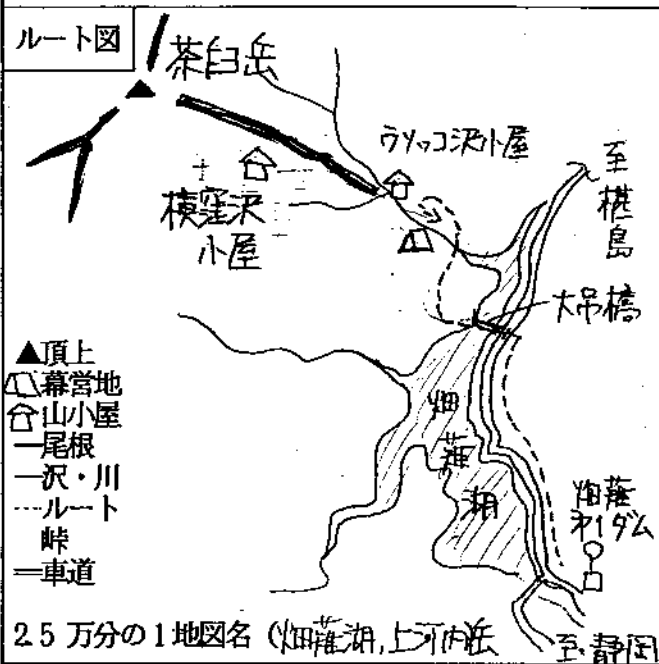
	計画	実績	トテ	備考
8/8	夕ム - 横窪小屋 5:00	夕ム - ウツ洞小屋	官内 ●	宮内 体調悪し
8/9	横窪 - 聖平 7:45	ウツ洞小屋 - 茶臼小屋	鶴 ●	宮内 下山
8/10	聖平 - 白間洞 7:00	茶臼小屋 - 白間洞	高指 ①	
8/11	白間洞 - 高山裏 8:30	←	中尾 ②	
8/12	高山裏 - 三伏峠 6:40	高山裏 - 雪投沢	鶴 ②	
8/13	三伏 - 熊平 8:30	雪投沢 - 両俣屋	手嶋 ●	
8/14	熊平 - 仙丈小屋 9:50	両俣 - 下山	高指 ①	
8/15	仙丈小屋 - 下山 8:20			
8/16	予備日			

経路  
作成部署 ↓ 報告部署

保管  
写 原紙  
年 年

承認  
検計  
作成  
大 夫

92年度 夏 山合宿報告書 山行日 92年8月8日(土) 天候 (晴) 記録者 宮内



コースタイム

6:20 起床 (JR静岡ST) 14:20 △ Uyahoko River たいぶ手前

7:35 静岡ST発  
↓ (バス)

10:45 畑薙第一ダム着  
11:15 " 発

↓

11:55 ) 畑薙大吊橋  
12:10 ) 手前

↓

13:00 ) 第三の橋の手前  
13:15 )

↓

13:40 ) Uyahoko River 小屋  
14:00 ) 手前  
1 (宮内リヤ)

〈報告者所見〉 8/7(金) JR を乗り継ぎ、静岡駅へ。蒸し暑い中、駅1階の広場で一泊。ちよとバス停のそばである。すでに、ザックを抱いて寝ている登山者がいた。8/8 起床後、朝食を摂り、畑薙行きバスを待つ。定刻より10分余り遅れてバスが来た。乗客は6~7分の入りであった。松山大、九産大のパーティも。畑薙までは3時間余りの山道で、車酔い確率は40%ぐらい。板倉SLは酔ったが、大矢CLは高いま。畑薙ダム着。曇時々雨。ここには登山案内所、売店、トイレ、無料シャワー駐留場(無料10~20台)がある。トヨタのパーティに会う。11:15 ダム発。車道の砂利道を急ぐ。コースタイム約5時間であるので、天気図の4:00に間に合うためにはペースを上げねばならない。先行のトヨタのパーティを追い越し、畑薙大吊橋を目指す。途中強い雨が降ったので吊橋手前の道端でカاپを着、ついでに1本。吊橋のそばに屋根のベンチがあった。ここで1本とればよかったと、後でわかった。吊橋は片側通行だ。なかなかスリルがある。吊橋を渡ると、いよいよ急登。天気図のため、と思い早めのペースで急ぐ。おっ、今日は調子が良いな、と思ったのは錯覚だった。ヤレヤレ峠を過ぎるまで2~3パーティを追い越す。沢の方へ下るあたりから、体が重くなる。橋を2つ渡った所で、1本取った。調子が悪いが、初日だから、と思いつ、横窪沢小屋を目指す。が、どうもヤンガ。気分が悪くなる。以前 燕岳へ行った時と同じである。情けないがUyahoko River 手前でダウン。板倉SLが来た道を引き返し、テニ場を探す。予定を変更し、今日のテニ場はここから10分程下った所とする。予定遅れとなり申し訳ない

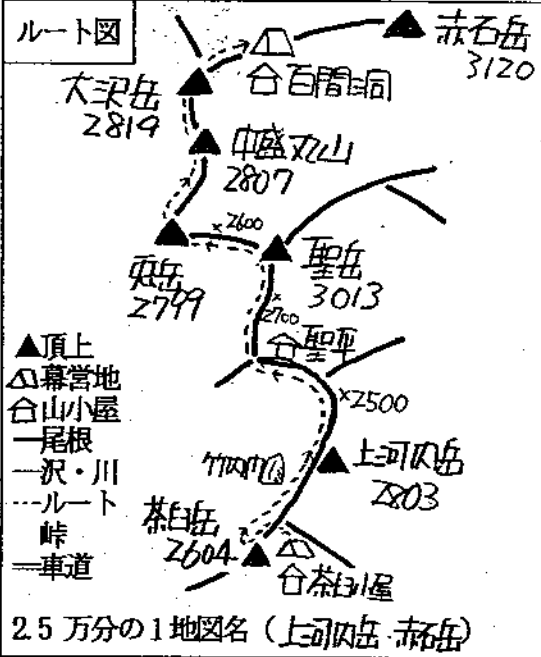
92年度	夏山合宿報告書	山行日	92年8月9日(日)	記録者	手嶋
			天候(●)		
ルート図					
		コースタイム	2:00 起床 3:35 △ 茶臼 4:00 ウソッコ小屋 25) 宮内さん不調 5:00) 板倉、手嶋は宮内をサポート、引き返す ・大矢、高橋、中尾は横窪沢小屋へ 5:30 ウソッコ小屋 6:30) 畑窪大吊橋 40) 宮内さんと別れる 7:30) ウソッコ小屋 45) 横窪沢小屋 8:45) 全員合流 9:15) 1900m 10:00) 15) 2250m 11:10) 25) 11:55 茶臼小屋着 △		

〈報告者所見〉 寒さと雨音で目が覚めた。まだ標高は低いから大丈夫だろうと薄着をして眼りについたのだが、思ったより寒かった。本日の行動予定は聖平までである。昨日から降り続く雨の中、テント撤収をして3:35出発した。1ピッチほど歩いたところで宮内さんの体調が悪い、ということで小休止。検討した結果残念であるが、下山することになった。板倉、手嶋が、宮内さんをサポートし入山口の畑窪大吊橋まで送り、大矢、高橋、中尾は横窪沢小屋へ荷上げ(板倉、手嶋のザック)して待つことにした。1ピッチ半で吊橋まで下山し宮内さんと別れ、そこから1ピッチでウソッコ小屋へ登り返す。空身ということもあるのだが、快調にとばしたため前を行く大矢さん達に追いついてしまった。横窪沢小屋へ着いたのは8:45。やっと落ちていてザックの中を見てみれば宮内さんのサイフが出てきて大ショック。茶臼小屋への800mの登りは退屈なものだった。道はしっかり整備されており、歩きやすいのだが、樹林のため展望は無い。何よりも「雨」がいけない。頭から足先まで(全身ずぶ濡れ)になった体をひきずるようにしながらダラダラ登り、休憩時は弁当箱に降りこんでくる雨を食べた。みんなあまりしゃべることなく歩くうちに茶臼小屋に着いた。雨は止んできたが、聖平まで行くのは断念し本日の行動はこゝまでとする。テントの中でホエーを焚き、先ずやったことは全員濡れた靴下をしぼる作業だった。

92年度 夏 山合宿報告書

山行日 92年 8月 10日 (月)  
天候 (晴れ)

記録者  
高橋



コースタイム

茶臼屋 3:50	分岐点 7:50 (8:05)
茶臼岳山頂 4:20	2700附近 9:05 (9:15)
竹内門(25%) 5:20 (5:30)	聖岳山頂 10:00 (10:20)
(上河内岳)	2600附近 11:20 (11:35)
2500附近 6:40 (6:50)	小英岳山頂 12:35 (12:50)
(聖平 7:30)	中盛丸山山頂 13:45 (14:00)

〈報告者所見〉 起床2:00。"森下が銀メダル"の (大沢岳山頂 14:30)  
 放送を聞いて出発。流れ星を11つが見る。(途中10分休憩)  
 10分で稜線に着き、空身で茶臼へ。富士山が、百間洞で場 15:25  
 美しい。花がどこにもない御花畑というところを通過する。上河内岳も  
 ここから見るとカッコいい。が、山頂をかかぬと先を急ぐ。2500地点で  
 1本取る。正面に聖岳がどんと構えている。(1)。この附近 2万5千の地図  
 のルートと違っていてとまどう。さんざん進んで 2700附近で1本取ると  
 残り高度差300を一気に45分で登って聖岳山頂。"27目め"と  
 感じである。あまりのペースに半分寝が出そうになる。ここから先は  
 下りるだけだと思いきや、なかなかどうしてどうして 聖岳にしても中盛丸山  
 にしても大沢岳にしても 怖く上る。その分、意味のない下りが  
 長くなり、イヤになってしまふ。大沢岳から百間洞への最後の下りは  
 テニ場がすぐそこに見えるにもかかわらず、ほかとらま  
 ちとの思いで到着。バテバテの体には、その後のテント生活も  
 えらくてしょうがなかった。この日の反省として、トップの自分が  
 ヒザが痛くて、下りが全くダメだったのて、上りでどうしても頑張り  
 ちかっパース配分が悪かったと思う。他のメンバーにも影響大  
 だったかも...。単独行の女の子が2人もいてびっくりした。

92年度

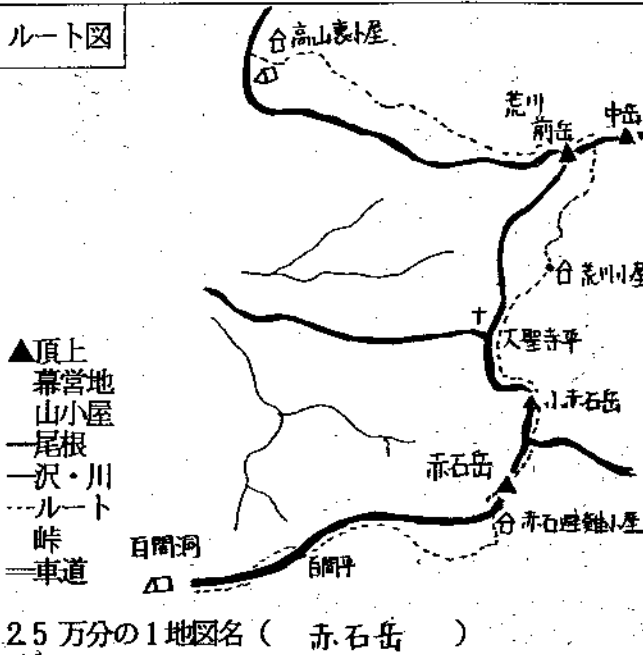
# 山合宿報告書

山行日

92年 8月 11日 (父)  
天候 (曇時々晴)

記録者  
中尾

ルート図



コースタイム

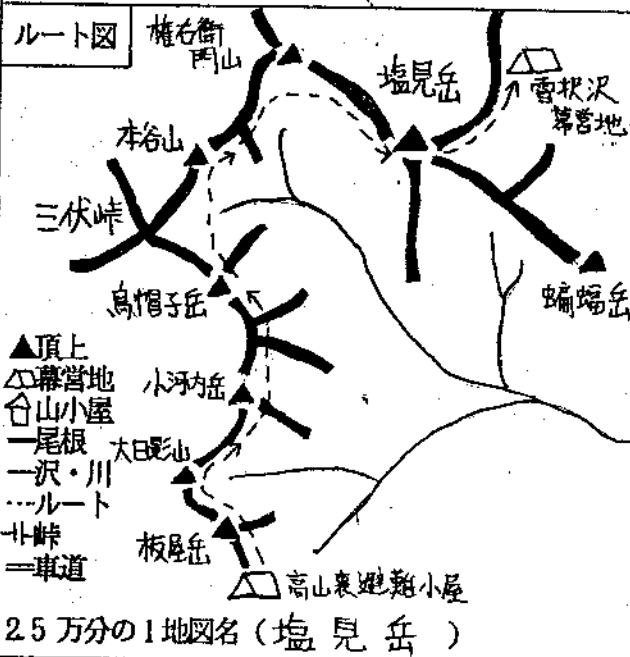
3:00	起床	11:15	荒川前岳
5:05	百間洞院	11:25	
↓		↓	
6:00	2800	11:40	荒川中岳
6:10		11:55	
↓		↓	
7:10	赤石山頂避難小屋	12:15	前岳
7:25		12:25	
↓		↓	
8:25	大聖寺平のつ上の	↓	
8:35	砂礫帯	1:15	
↓		↓	
9:38		1:30	
↓		↓	
9:50		2:	高山小屋

〈報告者所見〉 前日の行程が長く、かなりきつかったため、3:00の起床となる。意外にも疲れは足にきていない。おた、赤石、荒川を登るといふ事で気が張っていたのだろうか。天気は余り良くない曇天である。百間洞院後にし、ガラガラの坂を一寸、登りきると、百間平というハイツの繋る台地に出る。ここで赤石の威容が見えるはずだが、白いガスにおおわれたままであった。が登る内、横を見ると、昨日苦しかった、聖岳がどかんとその威容を表しているではないか。実に美しい。砂礫帯の南面をトウパスし、一気に登り切ると、雪の残る山頂避難小屋につく。山頂はガスっており、全く展望がきかず、寒い。が赤石に登った事で満ちた気分である。山頂にいても寒いだけなので、すぐに出発し、途中、雷鳥なども尻目にぐんぐん下る。そして大聖寺平のつ上の広り砂礫帯に着いた頃には、空は晴れ上がり、目の前に、荒川岳の素晴らしい姿が表れた。ここから見た荒川岳は合宿中も通しても、最も印象に残った内のひとつとなった。大聖寺平より屋根の測面をだらだらとトウパスし、荒川小屋をすぎると、登り出した。途中水場で一本とる。天気も良く、展望がひらけ、登っていて気分がよい。頂上直下まで来て、見事なお花畑に出くわす。こんな規模の大きい見事なお花畑は初めてという位、素晴らしいものであった。花の名前をおぼえとけばよかったと少し後悔するが、甘い香りで気分は最高によい。そうする内、頂上につく。悪沢岳までのヒストンも考えられたが、時間的余裕がないという事で、中岳だけのヒストンとする。中岳に着く頃には、悪沢はガスで姿をかくしてしました。再び前岳にもどり、今日の幕営地まではひたすら下りである。ガラガラの急坂をひたすら下る。高橋君の足が少し心配だったが、何とかいけそうだった。途中の水場で水をくみ、余りにも少ししか流れていないので、テントも持っている人がえに高山小屋まで出発し、テント場を確保し、本日の行動を終る。

# 92年度 夏山合宿報告書

山行日 92年 8月 12日 (水)  
 天候 (●の◎)

記録者 手嶋



## コースタイム

3:00 起床	10:50) 2608地点
4:55 高山裏避難小屋 △ 出発	11:00) 権右衛門山 トラバース手前
5:50) 板屋岳付近	12:10) 塩見小屋手前 25)
6:00) 板屋岳付近	12:35 塩見小屋
7:00) 2623地点 10) (大日影山と小河内岳の間)	13:35) 塩見岳ピーク 55)
7:50 小河内岳ピーク	14:55 雪投沢幕営地 △
8:10) 25) 烏帽子岳手前のコル	
9:05 烏帽子岳ピーク	
9:35) 55) 三伏小屋	
10:40 本谷山ピーク	

〈報告者所見〉 本日の予定は三伏小屋までなので、コースタイムは短く、余裕の一日となりそうである。4:55 小雨降る中、樹林帯を歩きはじめる。先頭を行く私は水滴を含んだ草木をかき分けるため、たちまち全身ビしょ濡れとなった。そのため多少の不快感はあるが、時々吹く冷風と目をなごませてくれる高山植物があるので気分は決して悪くない。足は前へ前へと進む。板屋岳、大日影岳はピークを巻き、小河内岳の登りでやっと展望が開ける。小河内から烏帽子までの稜線歩きは晴れていた爽快感が味わえたであろう。三伏小屋に着いたのは9:35。出発してから4時間半しか行動していない。これではあまりに物足りない。まだ時間も早いので、塩見岳を超えたところにある雪投沢キャンプ場まで足を延ばすことにした。本谷山を軽くこなし、次の権右衛門山のトラバース道は倒木地帯を歩く。そして塩見稜線への登りとなるが、これはかなり苦しかった。塩見小屋手前で休憩する。私は3000m対策用と名付けたようかんを2つも食べた。雨はすでにあがっていたが、まわりの山々はガスに覆われていた。本日のハイライトである塩見は登りこたえのある登りであった。あまり頑張ると後々バテるので呼吸を整えながらリズムカルに歩いた。頂上付近の岩の感じが私好みでガスの中にうっすらと見える岩のシルエットがカッコいい。13:35 塩見岳山頂(西峰ピーク)に着く。もちろんガスのため展望はゼロである。雪投沢キャンプ場はここから400m下ったところにある。疲れた足をかばいながらゆっくり下る。今日は10時間行動となった。

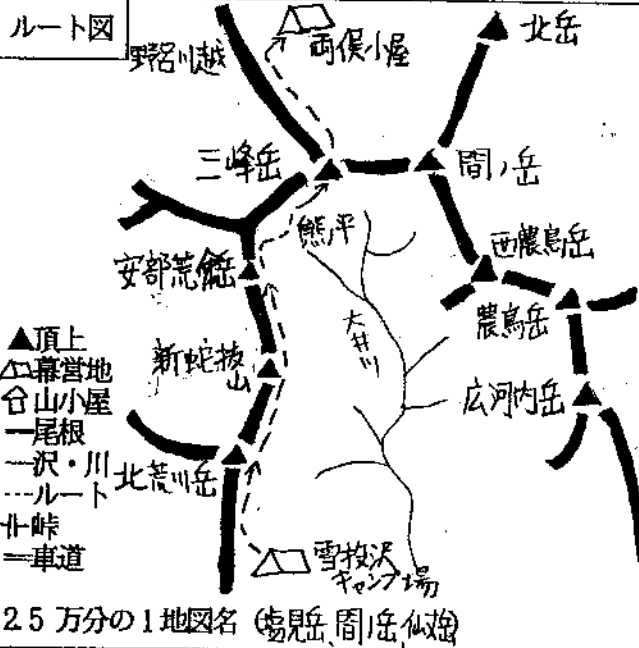


92年度

# 夏山合宿報告書

山行日 92年 8月 13日 (木)  
天候 (●)

記録者 手 嶋

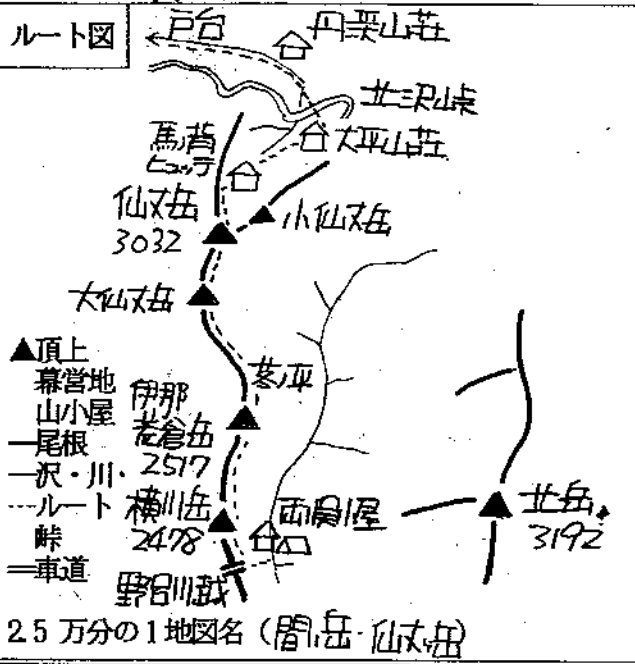


- コースタイム
- 3:00 起床
  - 4:35 雪投沢△発
  - 5:30) 北荒川岳ピーク
  - 40)
  - 6:30) 新蛇抜山と
  - 45) 安部荒川岳との間
  - 7:50) 熊平小屋の手前
  - 8:05) 熊平小屋
  - 8:10)
  - 9:30) 三峰岳ピーク
  - 9:50)
  - 10:05) ピークから下った所
  - 11:30) 三峰と野呂川越との間
  - 40)
  - 12:35 野呂川越
  - 13:05 両俣小屋△着

〈報告者所見〉合宿6日目である。本日は両俣小屋を目標とする。昨日にひき続き  
 さえない天候の中出発する。稜線沿いに歩きゆるやかな登りをゆくり行くと  
 北荒川岳に着く。目の前に農鳥岳が見えた。しかし天候は悪くなるばかりで  
 風も出てきた。体が冷えぬうちに行動する。熊平まではほとんど樹林帯の中  
 である。小さなアップダウンの繰り返しで体力はほとんど使わない。人ともあまり  
 会わないし、ただ歩くだけである。新蛇抜山と安部荒嶺はピークを通らず  
 東を巻く。8:10熊平小屋の前を通過する。決してわざとハイパスで歩いている  
 わけではないのだが、今日も順調なペースである。小屋から稜線へがなかなか  
 急な登りでそれを登りきると、一気に視界が開ける。このあたりで雨と風が  
 だんだん強くなってきた。風は南から吹いており、近くに風雨をさえぎるものが  
 何もない稜線上なので、休憩もできずそのまま三峰岳まで行くことにする。  
 雨に打たれ風にも吹かれ、登りも長く、疲労もたまってきているが、一定ペースで  
 歩き三峰岳ピークを通過する。そして少し下ったところでやっと休憩をする。  
 そこからしばらく岩の下りが続くが、その最中で高橋君が膝を痛めた。ペース  
 メーカーにならうため、先頭を高橋君と交替する。しばらく行くと再び樹林帯  
 へ突入。ウンザリするような倒木地帯だが、道はしっかりしている(倒木はコギリ  
 で切っている)ので歩きやすい。どんどん高度を下げ、12:35野呂川越に着く。  
 私もそろそろヤバくなってきた膝をかばいながら、最後の下り250mをこなし、  
 両俣小屋に着く。

92年度 夏 山合宿報告書

山行日 92年8月14日(金) 記録者 高橋香  
 天候 (くも)



コースタイム	
西小屋 3:30	↓
横川岳手前 4:30 (4:40)	葦沢途中 10:30 (10:45)
2499ピーク 5:30 (5:40)	↓
北岳 6:40 (6:50)	大平小屋 11:45 (12:00)
大仙岳手前 7:45 (8:00)	↓
仙丈岳山頂 9:10 (9:30)	丹波小屋下 13:10 (13:25)
	↓
	川原 14:25 (14:40)
	↓
	戸台大橋 15:50

25万分の1地図名 (間岳・仙丈岳)

〈報告者所見〉 3:30 西小屋発。雨は降って来た。とりあずき気分はよし。昨夜の作戦会議では「行けるとこまで行こうよ」といふことから。野呂川越までの急登はルートを見失い放していきなり疲れる。が最後はあつくと稜線へたどり着いて少し抜け出る。満月が西の方に美しい。横川岳以北、アツクダウンはなく。ゆくり上り、樹林を抜けたからは思っていた程つまらなくはない。また2499のピークをこえたあたりからカスガでできず。天気不安を感じていたけど。どうしたわけか上空にぽかりと青空がとと気づいたあたり。みるみるうちに晴れ間が広がる。こうすると気分は一変。陽気にも。しかも行程が思ったよりかなりはかどっている。大仙丈岳の手前のハストヒュッテまで。仙丈が。甲斐駒が。北岳が。あつと終わりのければ全2日か。あまりに感激しすぎて生れ初めの鼻血を出す。● 仙丈岳山頂 9:10。順番待ちして。記念写真をカシャ。ニから。馬背ヒュッテ→葦沢→大平山荘→丹波山荘→戸台のルートをとる。葦沢の谷間の向うに見える甲斐駒も絶景である。下り下り丹波山荘を通過したのが13:00。話によるとニから戸台まで3ピッチ。...のハズが歩けど歩けどちっとも進まない。最後はこんな仕打ちかまっていたとは。15:50 戸台大橋着。伊奈17:45(→ 銭湯) 飯田線 辰野 → 塩尻 中央線 名古屋 → 刈谷 0:00。

お疲れさまでした

'92 夏山合宿  
・ 装備・反省

NO.			
作成	年	月	日
部		課	

○ 団体装備.

(装備のトラブルなし)

(消耗品)

1. 3ラソク - 6本/6日 (残り2本) ○  
(短いタイプ)

2 ガソリン (夜・給油時のチェック)

8/8	9	10	11	12	13	
旧の使用量	0.2	0.4	0.9	1.0	0.3	0.7
トータル	0.6	1.5	2.5	2.8	3.5	
使用機	ブ ニ	ブ ニ	ブ コ	ブ コ	ブ コ	
備考		釜めし	スパゲッティ		雨乾燥	

3.5ℓ / 6 = 0.58ℓ / 日

3 (所見) 今回 計画では 0.5ℓ × 2台 × 日数 (夜朝)  
だが、夏 (長期) の場合 0.4ℓ × 2台 で可と思う。

3. 医薬品.

・ 使用 - バンソウコウ (靴ズレ), 三角巾 (ヌズレ)  
トクホシニール (筋肉痛) テベング (足首・個人装備)

○ 個人装備.

1. 上着シャツ - 毛でかい人 - 1名.
2. 下着 (上・下) - 綿では雨の時にダメ → 素材・ウィックロン・オーロン.

配布先	

経路  
作成部署 ↓ 報告部署  
保管  
写原紙  
年 年

承認
検討
作成

木村



## 92 夏合宿食糧所見

1. 総括 ——— 今回初めて食糧を担当する事となったが、何分経験もないものだから、過去の例を参照、立案、実行したが、上手くいった思う反面、反省すべき点も多くあり、今後に生かしたいと思う。以下に記す。

2. 夕食について — 米の量について、0.9合/人としたが、これは妥当な線であったと考える。若干、副食の量等により左右されるものの、0.9~1合/人でまず間違いのないものと考え、副食については、レトルト物が多くなってしまうが、質量、手間を考えると、こういった長期縦走時は、ヤむを得ないと考え、レトルト等は重いので、食べる順序等も考慮に入れるべきである。今回、好評を博したのものとしては、親子丼、スパゲティ、高野豆腐等があり、スパゲティ等、消化もよく、好評なものは、数日あけて2回位組み入れてもいいのではないかと考える。

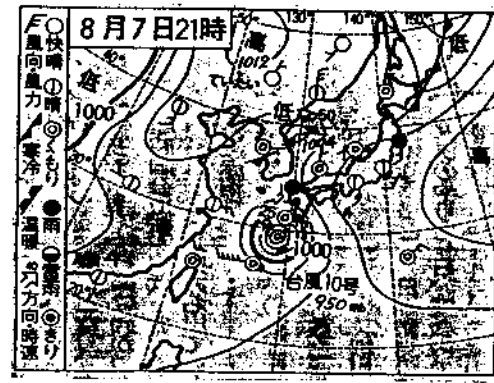
3. 昼食について — 昼食は弁当という事にしたが、これは、様々な面より効果的であったと考える。第1に、手間がかからない。第2に、個人装備が軽減できる。第3に、消化により等が争げられた。量的に1合/人というのは、個人的には、疲労度その他より、日によって足りない時とあれば、多いと感じる時もあり、パーティ全体量としての1合/人は、適切であったと考える。後はその時の体調等により、調節すべきであろう。後、おがずであるが、ふりかけを2ヶとしたが、個人的には、ふりかけ2ヶだけでは、余り食べられず、個装としてのり、その他をもと持参すべきだったと考える。

4. 朝食について — 朝食については、素早く食べられるものが要求され、お茶漬、ラーメン等になってしまうのは、いたしかたのない事である。が、ラーメン等をもっと上手に作る方法を考える必要がある。いたすらに、簡便性のみをいもため、朝からまずいものを食べさせられたのでは、気分が悪い。もう少し考える余地はある。(手軽に焼けるパン等)

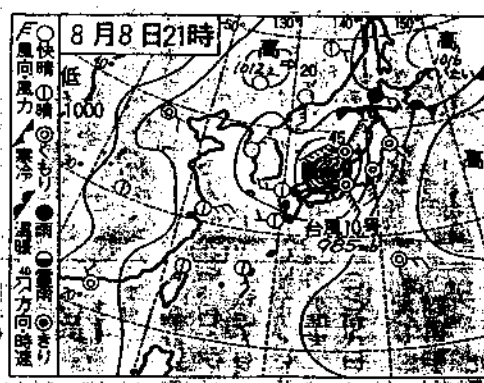
5. 個人食料について — 個食については、昼食のおがずや、し好品であるが、こういった長期縦走の場合、何があるが分からないので、日いその等、多少多めにもていた方が、良いのではないかと、思う。(かくいう私も5日目に個食が付き、ひそい思いをした。)

以上

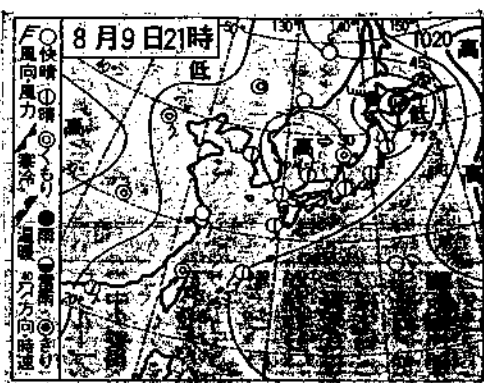
# '92年度 春山合宿気象



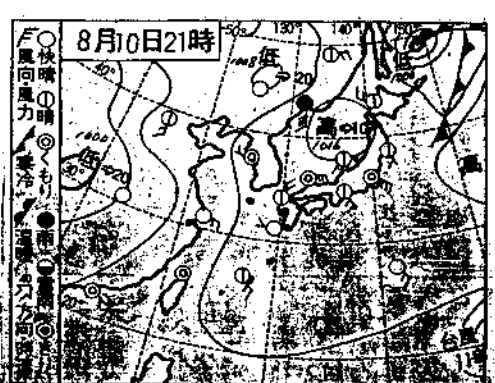
刈谷 → 静岡  
 ○ 台風10号接近



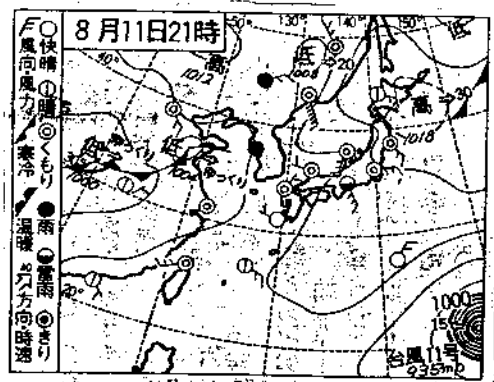
静岡 → 畑窪ダム → 三号早橋付近  
 ○ 台風上陸。  
 午前中小雨、午後から本降りとなる。  
 予報では静岡地方雷雲多しとの事。



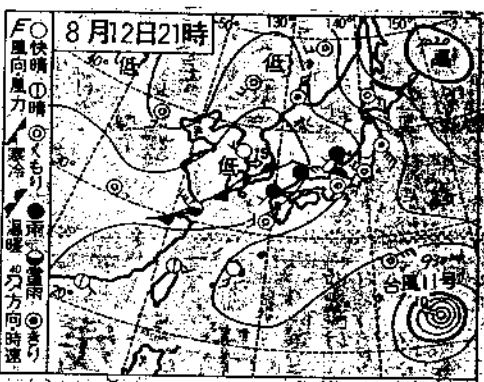
三号早橋付近 → 横窪沢小屋 → 茶臼小屋  
 ○ 台風通過。温帯低気圧となる。  
 植村林帯の中での行動だったので、  
 台風の直接的な影響を受けない。  
 昼から雨も止む。



茶臼小屋 → 聖岳 → 中盛丸山 → 百間洞  
 ○ 高気圧が大きく広がり  
 上天気となる。  
 蒸し暑さを感じた。



百間洞 → 赤石岳 → 荒川前岳 → 高山裏  
 ○ 高気圧の移動と大陸側から  
 押し寄せる低気圧によって天候は  
 不安定に。  
 晴れていた空が一転し雨になることあった。



高山裏 → 三伏小屋 → 塩見岳 → 雪投沢  
 ○ 前線をともなした低気圧接近  
 岐阜県では記録的な集中豪雨発生  
 山では降ったり止んだり。



雪投沢 → 熊平 → 三峰岳 → 両俣小屋  
 ○ 前線が南下し、山では悪天が  
 支配する。  
 台風11号の北上もあり、太平洋  
 高気圧は入り込めスキもない。



両俣小屋 → 仙丈岳 → 戸台  
 ○ 本日も悪天が予想されたが、  
 ホッカリ発生した高気圧により  
 山は上天気となる。